

「平成27年9月関東東北豪雨」における  
常総市災害ボランティア活動の記録

活動期間：平成27年9月17日  
平成27年9月19～25日

活動場所：茨城県常総市



平成27年10月20日  
千葉県隊友会

---

## — 目 次 —

1	はじめに	—————	P 1
2	茨城県常総市について	—————	P 2
	(1) 常総市の概要		
	(2) 被災状況		
3	活動開始に至る経緯	—————	P 4
	(1) 事務局長からの一報と会長の決心		
	(2) 防災担当理事役の情報収集		
	(3) 各支部への協力依頼及び現地偵察等		
	ア 各支部への依頼（ボランティア参加者の募集）		
	イ 県本部理事役による現地偵察と常総市VC等との調整		
	ウ 各支部への依頼（ボランティア活動実施要領）		
	エ 県本部理事会の開催と更なる協力のお願ひ		
4	ボランティア活動の実施（日にち毎に記述）	—————	P11
5	活動経費	—————	P18
	(1) 隊友会本部への実費の申請		
	(2) 千葉県隊友会としての補助		
6	ボランティア活動の成果とじ後への反映事項	—————	P19
	(1) 計画及び準備		
	ア 実施可否の判断と参加者の募集について		
	イ 活動開始時期（タイミング）について		
	ウ 現地に関する情報収集について		
	エ 活動要領の検討について		
	オ 現地偵察について		
	カ VCとの調整について		
	(2) ボランティア活動の実施上での具体的事項		
	ア 防災服等について		
	イ 私有車の表示		
	ウ 宿泊用寝具について		
	エ 食事について		
7	おわりに	—————	P23

## — 別紙・別冊 —

- 別紙第1 「常総市ボランティア活動協力のお願ひ（第1号）」
- 別紙第2 「常総市ボランティア活動協力のお願ひ（第2号）」
- 別紙第3 「常総市ボランティア活動協力のお願ひ（第3号）」
- 別紙第4～6 「常総市ボランティア活動参加の所見（活動記録）」
- 別紙第7 「常総市ボランティア活動協力のお願ひ（第4号）」
- 別紙第8 「常総市ボランティア活動の参加者名簿」
- 別紙第9 「常総市ボランティア活動の参加者活動記録」
- 別紙第10 常総市ボランティア活動終了に関するご連絡（第5号）」
- 別紙第11 「長岡様から隊友会宛に頂いた礼状」

## 常総市災害ボランティア活動の記録

### 1 はじめに

この度の「平成27年9月関東東北豪雨」で被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

2015年9月7日（月）に発生した台風18号は、0900時点では中心気圧1000hpaで硫黄島南西約360Kmの海上に位置していた。それほど大きくはない18号だが、この時点で10日（木）あたりには近畿地方を直撃し、秋雨前線を刺激して大雨となることが予想されていた。上陸が予想される近畿、四国、東海地方で厳重な警戒が必要との情報が発信された。その後、18号の進路がやや東にずれたこともあり、9日（水）夜にかけて関東、東北地方に大雨による土砂災害の危険度が非常に高まってきており、特に、線状降水帯の影響で栃木県では記録的な大雨（600mm）になる可能性があるとして発表された。

10日（木）未明栃木県に、朝茨城県にそれぞれ「大雨特別警報」が発令された。その頃、茨城県常総市を南北に流れる鬼怒川は、若宮戸地区で越水し、昼には三坂地区で堤防が決壊した。この鬼怒川の氾濫により、常総市の石毛町以南の鬼怒川東側（鬼怒川と小貝川に挟まれた地域）はそのほとんどに水が流れ込み、家屋を破壊し、約7,000棟の家屋が浸水被害を受けた。そして、避難警報・避難指示による他、被害に即応して約1万2千世帯・約3万4千人が避難を余儀なくされ、間に合わなかった住民約4千人は自衛隊・防災ヘリ等の各種手段により救助された。以上が、今回千葉県隊友会が災害ボランティアとして活動した常総市の被災経緯である。

茨城県、栃木県及び宮城県では、台風の直撃を受けなかったにも関わらず、線状降水帯という9月秋雨の頃に起こる特異な気象現象により、予想をはるかに超える大きな被害が発生した。

又、東南海巨大地震等の発生予測、昨今の地球規模での異常気象或いは日本全国至る所で不気味なほどに噴火の予兆を見せる火山など日本には自然災害が発生する要因が数多く存在し、これらの災害から命を守るための対策が急務である。

とともに、災害が発生した場合、インフラ復旧などは国及び地方自治体等の責任であり、そのための訓練等も重要である。

しかしながらこれら災害に対して、個人の生活の復旧は個人がしなければならない。被災のショックの中で個人の頑張りを支援するボランティア活動が貴重な存在になることは、東日本大震災をはじめとして明らかである。

このような状況を踏まえると、隊友会にあっても防災ボランティア活動は更に多く求められるものとする。今回のボランティア活動開始の経緯から活動内容・教訓等を記録し、今後の活動に生かしたい。

今回の常総市ボランティア活動の特性として、

- ①千葉県隊友会単独での計画と実施
- ②移動所要が1～3時間程度の隣県での活動
- ③発災1週間後で常総市ボランティアセンター（以下、常総市VC）が立ち上がった初期段階での活動

以上3点があげられる。この特性を踏まえて今回の活動をご理解を頂き、今後の参考としてもらえることが本旨であります。

## 2 茨城県常総市について

最初に常総市の概要及び被災状況について記述する。

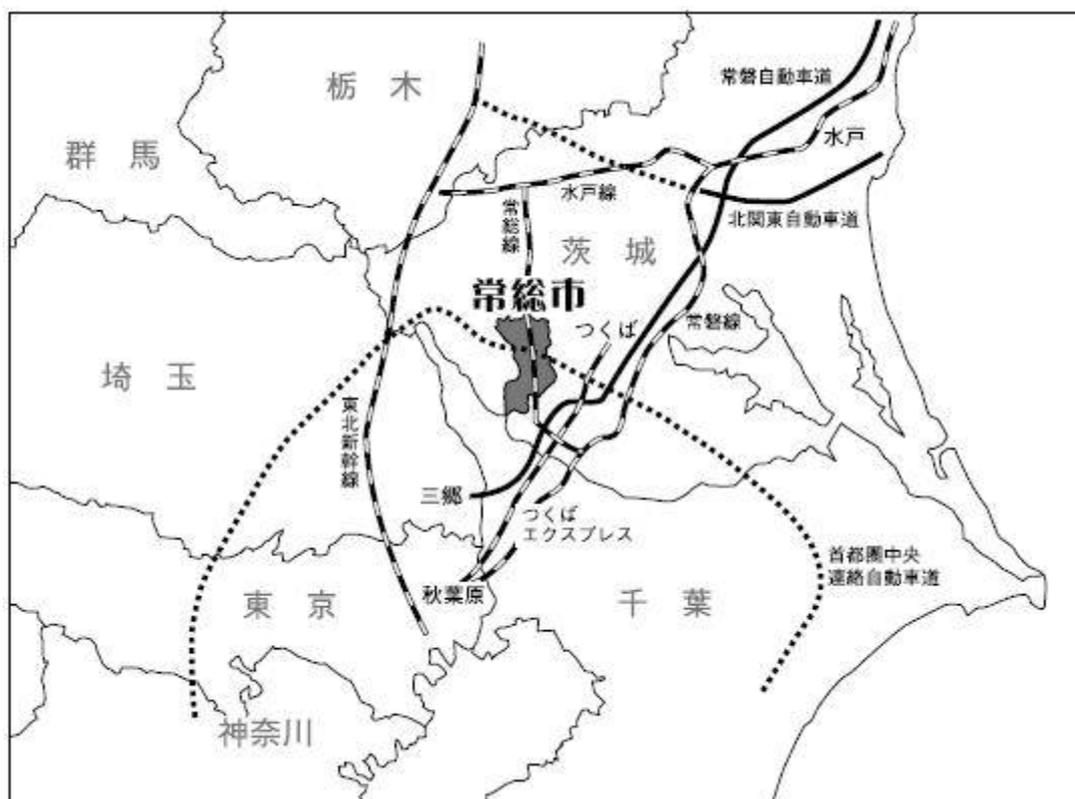
### (1) 常総市の概要

茨城県の南西部、都心から55キロメートル圏内に位置しており、東はつくば市・つくばみらい市、西は坂東市、南は守谷市、北は八千代町・下妻市にそれぞれ隣接。南北は約20Km、東西は約10Km、面積は、123.64km<sup>2</sup>。標高は約5～24mで、気候は、太平洋型の気候であり、四季を通じて穏やか。

市のほぼ中央には一級河川の鬼怒川が流れており、東部の低地部は広大な水田地帯、西部は丘陵地で集落や畑地、平地林が広がり、住宅団地や工業団地、ゴルフ場なども造成され、近郊整備地帯として都市機能の強化も図られている。

道路体系は、本市を南北に国道294号、東西に国道354号が整備。又、周辺市町村と連絡する主要地方道や一般県道が整備。さらに、本市のほぼ中央部には首都圏中央連絡自動車道が計画され、広域道路網の整備が進んでいます。鉄道については、南北に関東鉄道常総線が走り、取手方面と下妻・筑西方面を結び、守谷においてつくばエクスプレスと接続、東京都心への所要時間の短縮により通勤圏の拡大が進む。

市は、2006（H18）水海道市が石下町を編入し常総市と改称し、今年には市政10周年を迎えた。市全体の世帯数は約2万1千、人口は6万5千人。住宅は水海道地区と石下地区に集中。



常総市HPから抜粋

## (2) 被災状況

### 平成27年9月関東・東北豪雨に係る茨城県常総地区推定浸水範囲 (9月12日15:30時点までに浸水した範囲)



関東地方整備局防災ヘリ撮影(9月10日14:50)、報道情報(9月10日18:00時点)、国土地理院  
くにかげⅡ撮影(9月11日10:00時点、13:00時点、9月12日15:30時点)の画像判読等により推定した  
浸水範囲を統合。

浸水範囲は、面積約40平方キロメートル、東西約4キロメートル、南北約18キロメートル。  
9月11日13:00時点と変化はなし。

実際に浸水のあった地域でも把握できていない部分があります。また、雲等により浸水範囲が十分に判読できていないところもあります。

※基盤地図情報の住家・非住家の一般建物。浸水範囲内の建築物数は約20,000個。

### 3 活動開始に至る経緯

#### (1) 事務局長からの一報及び会長の決心

9月11日（金）夜、「隣県（茨城県常総市）の災害に対して千葉県隊友会として、水害の後片付けにボランティアを派遣、派遣要員を組織しましょう」とのメールが河野会長及び防災担当理事役に届く。

防災担当理事役は茨城県HPなどから情報収集し、12（土）夜、河野会長・事務局長にメール。

『茨城県ボランティアセンターは開設しているが、ボランティアの対象は県内に限定していることを踏まえ、更に情報収集を継続しつつ、各支部長に「千葉県隊友会は、条件が整い次第、茨城県常総市でボランティア活動を実施する。各支部には防災ボランティア登録者を主体に参加者を募集する』

という方向で進めることについて指導を受ける。

同夜、河野会長から「基本的に同意」のメールを受ける。

以降、隊友会本部等との連絡・調整は事務局長が担当し、活動に関する計画及び実施の統制・調整は防災担当理事役が担当することとし、準備を開始した。

#### (2) 防災担当理事役の情報収集

12日（土）、茨城県ホームページ（以下、茨城県HP）で防災ボランティアについて問い合わせする。

この際、『千葉県隊友会は、県外からの参加ですが10名程で1週間程度の予定で活動したい。隊友会は、自衛隊OBで組織する公益社団法人であり、東日本大震災において1週間にわたりボランティア活動を実施した実績があり、自己完結した組織的な活動が可能です。』という旨を付記した。

翌日13日（日）、『お寄せいただいた問い合わせについては、おおむね1週間を目安に担当課より回答します。』という自動返信メールが届く。

メールは機械的な対応であったが、14日（月）になって、茨城県社会福祉協議会から直接電話があり、『県としてボランティアセンターを設置しましたが、まだ県職員を常総市には派遣していない現状であり、ボランティアについては常総市VCに問い合わせをお願いしたい。』とのことであった。

真相が分からないまま、早速、常総市ホームページ（以下、常総市HP）を確認した結果、『本日（14日）、常総市VCを設置した。』ということが判明した。

又、ボランティア活動募集は、県内を対象であり、活動としては市内3カ所に臨時に設けた駐車場に車両を駐車し、常総市VCが準備するマイクロバス等でVCへ移動し受付を済ませた後、オリエンテーションを受けてから活動する。という要領が案内されていた。

このような枠の中で千葉県隊友会が団体としてまとまって活動することは難しいし、東日本大震災の気仙沼での活動のように、代表者がVCに当日朝（又は、前日）受付で活動指示書を受領して、それに基づき会員は現地に直接前進し活動するという効率的かつ効果的要領で実施するためには、VCと直接調整することが必要だと考え、15（火）、常総市VCに電話にて、「千葉県隊友会としての活動概要を説明し、17（木）にVCに赴き調整したい」旨を伝え、了承を得た。

隊友会という組織であればと、かなりの期待をしていると思わせる電話対応であった。

### (3) 各支部への協力依頼及び現地偵察等

#### ア 各支部への依頼（ボランティア参加者の募集）

以上の状況を踏まえ、15日（火）夜、各支部長に対して、「千葉県隊友会は今般の常総市の被災に対して災害ボランティアを実施する。今後、現地の状況を把握して、細部の実施要領は改めて連絡することとし、各支部にあつては防災ボランティア登録者を主体に参加協力会員の募集をお願いする」旨のメールを発信した。

活動の概要としては、19日（土）～1週間程度として、各支部毎私有車量に乗り合わせて移動し、日帰り活動とした。

#### 別紙第1「常総市ボランティア活動協力のお願い（第1号）」

#### イ 県本部理事役による現地偵察及び常総市VC等との調整

千葉県隊友会が組織として効率的効果的に活動するための現地確認と調整を目的として、県本部理事役の永岡理事役、天草理事役、高谷理事役、大根理事役及び森船橋支部長の5名により、17（木）雨の中、常総市に現地偵察に向かった。森船橋支部長は、東日本大震災後の気仙沼ボランティア活動の仲間であり、経験を生かして助言をいただくためにお願ひした。

17（木）朝0730に市川で全員合流して私有車1両に同乗し、湾岸～常磐高速道路を経由し前進。心配していた常磐高速道路は渋滞がなくスムーズに前進。しかしながら、常磐高速道路谷和原ICで国道249号線に入ると直ぐに渋滞、カーナビも通行止めの表示があつたため鬼怒川西岸を迂回路に選定し常総市に向かった。しかしながら、迂回路のあらゆる場所で渋滞が発生しており、常総市VCに到着したのは1030過ぎであつた。

早速、常総市VCを訪問した。常総市VCは、雨のためその日のボランティア活動は中止の看板があつた。

受付で、10～15名程度で1週間に亘りまとまって活動したい旨の活動趣旨を説明し、別室にて市社会福祉協議会職員の横島さんが丁寧に対応して頂き、隊友会の活動要領については理解してもらつた。自衛隊OBということから活動に対する期待が感じられたものの、参加人員が10～15名ぐらいという見込みであることもあり、活動内容は活動開始する19日（土）朝、受付で改めて調整することになった。

自衛隊OBである隊友会への期待ということでは、一般ボランティアにはお願いできない難しい活動、例えば、機械を使用した作業、或いは床上浸水した家屋の床（フローリング）を剥さないで床下に潜つての泥出しができないか？ 等について確認を受けた。

隊友会は自衛隊での経験を活かし可能なことは支援したいが、年齢は60歳以上であり、特殊技術を保有した会員が参加するものでないことを説明した。

このようなVCからの質問は、VCも立ち上がって日が浅いこともあり、被災者からの支援要望に対して、何を、どの程度、ボランティア活動で実施するかについて手探り状態であることによるものと想像できた。

床下の泥出し作業について、更にしつこく触れておきたい。

床を剥さずに床下の泥を出すには台所に作られた床下収納庫から入るか、ない場合は一部の床を壊し中に入り作業することになる。一緒に参加した水道工事会社を運営している高谷理事役に作業の可能性について聞いたところ、「非常に狭い中での作業になり、中と上、交代しながら2～3名の作業になり効率は悪い」とのことであった。当然のことと想像できる。又、作業の効率性のみならず、衛生的な面からも身支度は相当の準備が必要であろう。

この床下からの泥出し作業を一例として、ボランティア作業について考えたい。床を剥せばフローリング材は破棄することになる。やむを得ないことであるが、被災者のお立場からすれば、理解しなければいけないと思う。

ボランティアに求められるのは、被災者に寄り添い、何かをしてあげるのではなく、困っていることをお手伝いしてあげるという気持ちである。VCからお願いされた作業が自分たちの能力と体力から実行可能であるならば作業を選ばずやるのがボランティアである。とすれば、床を剥さないで泥出しすることは当然である。

今回、実際に求められれば、我々は作業する覚悟であった。

そこまではするの？という疑問はあるが、VCは被災者から要望があり、ボランティアの人数を考慮して可能であればお願いすることになると思う。その判断は被災全般を把握し、ニーズと活動人数、優先順位などから総合的に判断できるVCにしかできない。

それでは、VCに全体の把握能力と総合的な判断力があるかという疑問も生じるが、開設当初の段階にあっては困難とも思われる。従って、それも飲み込むしかないのがボランティアだと考える。

今回は、可能性について問われたのみであり、実際、このような作業の依頼を受け実行したならば、その感想はいかがであったろうかは解らない。

VC事務所は、活動中止日であるにも関わらず30人ほどの方が電話対応と個別調整等に非常に忙しい状態であった。

一般的に、市VCは社会福祉協議会が主体となり運営されるが、通常の職員数では対応できないことから、中長期的にボランティア活動が可能な方がVC内で活動しているのが現状である。これは気仙沼ボランティアセンターでも同様であった。隊友会がこれに参加できればともという思いもあるが、中長期に亘り連続勤務することが必要な条件であるため無理があると思われる。

VCで調整していく段階で、常総市まで片道3時間以上の所要があったこともあり、宿泊の可能性を打診した。VCでは、参加者は基本的には近隣市町村からの通修で考えており宿泊施設の準備はないとのことであったが、市が保有する施設で「常総市青少年の家」があることを教えていただいた。勿論、この施設は社会福祉協議会が管理運営しているものでないことから、市役所生涯学習課との調整が必要であることが判明した。

調整終了後、VCの受付施設の状況、貸出する資材備品の状況などを確認した。貸出備品の数が少なく、シャベルは400本程度であることから、携行の必要性も感じた。

又、VCに出入りする車両は、災害ボランティアに関する標識を掲示していることから、隊友会としても何らかの表示が必要であると感じた。森船橋支部長がマグネット仕様の用紙にプリントして、持参してくれることになった。

後ほど述べるが、非常に重要なことであった。

このようにVC及び市役所での調整が円滑にできた要因として、自衛隊OBで組織する公益社団法人という立場だけでなく、参加した5名全員が隊友会支給の防災服・隊友会帽子等を着用していたことが、VC側の安心感と信頼感を得たことに繋がった、というのを実感した。



常総市ボランティアセンター玄関  
(常総市心身障害者福祉センターを活用)



オリエンテーション用テント



常総市VCでの調整

車内昼食を済ませ、いざ、常総市役所に前進。道路脇に住宅・店舗などから出された家財道具やゴミが山積みされた道路を通過し市役所に到着。

市役所も浸水を受けた形跡があり周辺にはやはりゴミの山であった。とともに、目についてのは「祝合併10周年」という横断幕である。なんとという皮肉なことかと感じながら満車に近い駐車場に車を駐車した。

市役所内は市民の方々が多く、被災証明を受ける列であった。案内で生涯学習課を訪ねたところ、約8Km離れた石毛庁舎にあることを教えられた。事前の机上での情報収集不足である。

常総市は、10年前に水海道市と石下町が合併した若い市である。現在、その中心となっている水海道という地名は、鬼怒川と小貝川に挟まれた地域を表しているのかなとも思った。



常総市役所（入口付近）



石毛庁舎敷地に集積されたゴミ

水海道の本庁舎から30分ほど北上し石毛庁舎に到着。新しい2階建ての庁舎とその駐車場に隣接した土地は、やはりゴミの山であった。

ワンフロアの中で生涯学習課を訪ね、課長と面会した。隊友会としての活動要領を説明した結果、「使ってもらえないですねー、自衛隊が広場に宿営していますが、OBさんだから上手くやってください。」と、速攻で了解をいただいた。災害復旧のためのボランティアとはいえ、市役所内での手続き等で返事がもらえるのに相当の時間が必要だろうと考えていたので、調整に伺った5人全員がホットした瞬間であった。活動の後抛が確保できたことで活動に弾みがついた。

宿泊できるとなれば、寝具が必要になるので、早速、隊友会本部公益課長の松枝さんに電話を入れて、ベッドと寝袋の手配をお願いした。

次に宿泊施設として借りられることになった『常総市青少年の家』の確認のため、車を走らせた。『常総市青少年の家』は、鬼怒川の東岸に位置し水海道の概ね対岸のやや丘陵地に位置しており、今回の水害の被害は受けていない。

南下の途中、道路偵察も含め移動することにし、石毛町から堤防沿いの道路を選定したが、思いもよらず通行止めはなく前進できた。

青少年の家に到着し、早速、施設を確認した。建物は昭和初期の小学校（分校規模）と思われ、板張りの廊下と教室に懐かしさを感じながら確認した。電気OK、水道OK、トイレOKで一安心。

広場には、陸上自衛隊古河駐屯地に所在する第1施設団隷下の第101施設機械中隊が宿営用天幕8張りで宿営していた。主力は災害派遣中で不在であったが、管理要員は、我々が屋内を使用することを知り、中隊もできればという希望があるので、市役所の担当課と電話番号を教えた。

青少年の家を確認中に隊友会本部の松枝さんから電話があり、群馬県隊友会が保管している簡易ベッドと寝袋各12個の発送の手配ができ、19（土）には配達できるという嬉しい知らせが届いた。松枝さんの迅速な対応と群馬県隊友会副会長の小島さんの荷物の準備、発送に感謝申し上げたい。

以上で、雨の中ではあったが、無事に偵察目的を完了し、帰路に着いた。



常総市青少年の家（昭和初期の小学校校舎？）



宿営中の第101施設器材中隊

### ウ 各支部長への依頼（ボランティア活動実施要領）

17日（木）夜、現地偵察・調整結果に基づき、細部の行動要領等について、「常総市ボランティア活動協力をお願いに関するメール（第2号）」を発信した。

第2号では、

- ①日帰りによる活動の他、宿泊による活動のための宿泊施設を確保した。
  - ②活動期間、理事役2～3名をもって、県本部機能を『青少年の家』に設置する。
- 以上2点を修正・追加し連絡した。

別紙第2「常総市ボランティア活動協力をお願い（第2号）」

### エ 県本部理事会の開催と更なる協力をお願い

18日（金）1430～事務局にて、県本部理事役会を開き、これまでの状況、現地偵察結果を報告するとともに、今後の活動要領について認識の統一を図った。

15日（火）に各支部長に「ボランティア協力依頼」をお願いしてから18日（金）までの参加者は、シルバーウィークにも関わらず20～23日は12～14名であった。しかしながら、19日（土）は理事役4名のみであることから、20日以降の活動準備（VCとの調整、宿泊準備等）に充てることとした。又、24～25日の参加者が10名に満たないことから、再度、各支部長に協力をお願いすることとした。

別紙第3「常総市ボランティア活動協力をお願い（第3号）」

理事会終了後、活動に必要な地図、隊友会の幟、ビブス（隊友会のロゴ入り黄色のチョッキ）などを準備して明日からの活動に備えた。

ビブスは、隊友会として、まとまって活動する上で、自他ともに識別するためには欠かせないものである。



#### 4 ボランティア活動の実施（日にち毎に記述）

##### ■19日（土）

理事役4名（精山事務局長、天草理事役、高谷理事役、大根理事役）は、0930までに私有車両により『青少年の家』に移動した。この際、天草理事役は高谷理事役が準備したスコップ20本を後部座席及びトランクに載せての移動であった。

到着後、玄関隣の応接室と書かれた部屋に事務所を開設した。「青少年の家」には机と椅子は豊富に備えつけてあるので助かった。

又、道路入口及び玄関には、事務局から持参した千葉県隊友会の幟を掲げて標識とした。

事務所開設中に群馬県隊友会から発送された簡易ベッドが配送され、予定通りではあるが、安心した。寝袋は別便で午後到着の予定。



『常総市青少年の家』入口に掲揚した千葉県隊友会の幟

偵察の時に述べたが、第101施設機材中隊は案の定、「青少年の家」右半分の教室を使用していた。OBと現役の不思議な同居生活だが、我々としては部隊と一緒にいることは非常に安心安全だと内心思っていた。

一通り準備ができたことからVCに前進し、明日からの具体的な行動の打ち合わせを実施することとした。

VCでは、偵察の時にお世話いただいた横島さんに挨拶した後、団体受付担当者と調整した。

VCは、被災地区を7個の地区に区分して実施しており、我々は越水した若宮戸地区を含む「玉地区」で活動してもらいたいとの要望を受け、玉地区VCを設置している若宮戸の住所と現地担当者氏名・携帯№を確認し、午後から現地を確認しつつ現地担当者と具体的な調整を行うこととした。

帰り際、VCが準備しているマスクなどの備品を頂戴した。

昼食後、教えられた住所をナビにセットして若宮戸に前進した。途中、堤防沿い道路は通行止めがあり迂回しながら移動したが、教えられた住所に間違いがあり、途中で玉地区VC担当者の横山さんと電話連絡を取ってたどり着いた。

玉地区VCは、農家の納屋と広い敷地の一部をお借りして、テント1張により設置されており、何組かの若いボランティアが集まっていた。

現地担当者の横山さんと調整した結果、被害の大きい堤防に沿った部落で活動することとなり、明日朝に被災者住所・氏名を受け取ることにし、玉地区VCを辞した。

現地VCの担当者である横山さんは、30歳ぐらいの若い青年であり、埼玉県から長期参加しており、後3～4日ぐらいは継続するとのことでした。  
 現地VCの担当者は、当然、地理に明るい市職員と思っていたが、これが実態なのだと認識を改めた。

夕刻、小淵副会長と森船橋支部長が到着。準備状況を報告して杯をあげた。

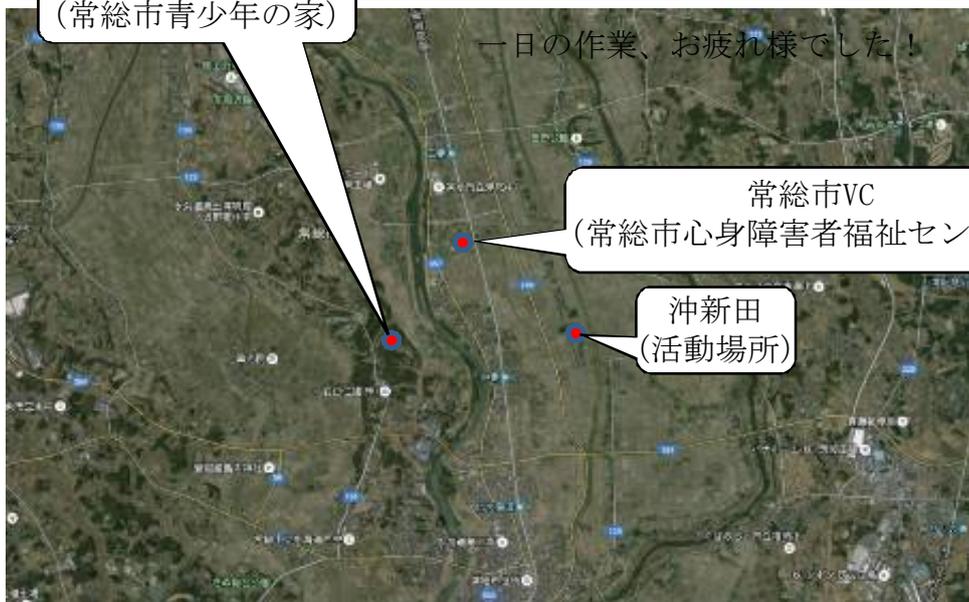
ここでびっくり、第101施設機材中隊に撤収命令が出て、撤収準備を始めた。若い隊員との同居を楽しみにしていたので、がっかり。

流石、陸上自衛隊らしく、寝泊まりした教室、廊下、トイレを徹底的に清掃している姿を見て、良き伝統に感激。  
 時2000、中隊長の命令下達後にトラックに分乗して帰隊する中隊を全員で見送った。



宿泊場所  
 (常総市青少年の家)

一日の作業、お疲れ様でした！



常総市VC  
 (常総市中心身障害者福祉センター)

沖新田  
 (活動場所)

宿泊場所・常総市VC・活動場所の位置関係

■ここで、20日（日）～25日（金）の6日間連続して大農家「長岡宅」で活動した背景と活動概要について記す。

20日（日）0830に「青少年の家」を出発し、玉地区VCへ前進。担当者の横山さんと調整した結果、昨日調整した場所は既に作業が完了しており、急遽、玉地区とは別地区の6 Km程南に位置する、沖新田地区の大農家「長岡宅」での作業を依頼された。じ後、25日（金）まで6日間連続で長岡宅でボランティア活動することになる。

これは、市VCと現地VCとの連携の不備等々、立ち上がり当初のVCの混乱だろうと思われるが、隊友会としては、日々の作業報告と長岡宅の要望をVCに伝えた結果として、25日（金）まで継続することになった。

### 沖新田の長岡宅

- ◇稲作30町歩（30ヘクタール）の超大農家  
（昔、1～2町歩の農家は大農家とされていた）
- ◇鬼怒川からは約1.5Km程離れているが、2.5～3mの浸水があり、お祖母さんと奥様は、自衛隊及び防災He1で救助された。  
ご主人は、水が引くまで愛犬とともに母屋の2階で自宅を確保。



※記載内容については、隊友会の報告に使用することで長岡様の了承済み

20～25日（金）までの活動については、浮城副会長（23～24日参加）、天草理事役（19～21日・24～25日参加）及び高谷理事役（19～24日連続参加）の所見を参照して頂きたい。

別紙第4～6「常総市ボランティア活動参加の所見（活動記録）」  
（浮城副会長、天草理事役、高谷理事役）

活動間の昼食については、現場に移動する途中、「青少年の家」近くのコンビニでそれぞれが調達して持参した。しかしながら、長岡宅のある沖新田地区は炊き出し支援を受けており、奥様が我々の分も含めて沢山頂いてきてくれたので、併せていただいた。

#### ■20日（日）参加者：12名

○宿泊での参加の5名

本部（小淵副会長、精山事務局長、天草理事役、高谷理事役）

○通修での参加者7名

四街道支部4名（中尾支部長、山内会員、後藤会員、久保会員）

美浜支部 1名（柴田支部長）市原支部 2名（秋重支部長、栗沢会員）

○本部責任者：森船橋支部長

○四街道支部の山内会員と後藤会員は、予定とは別に急遽、明日も連続での参加を頂くことになりました。

尚、山内会員は今回参加者の最年長者で83歳です。感服いたします。

○夕刻、永岡理事役、金子理事役、船橋支部の高橋会員の3名が到着。



出発前のミーティング

作業開始前の体操



■21日（月）敬老の日 参加者：13名

- 宿泊での参加7名
  - 本部4名（小淵副会長、高谷理事役、永岡理事役、金子理事役）
  - 四街道支部1名（久保会員） 船橋支部2名（森支部長、高橋会員）
- 通修での参加6名
  - 本部（精山事務局長）
  - 四街道支部3名（山内会員、後藤会員、小林会員）
  - 市原支部2名（秋重支部長、栗沢会員）
- 本部責任者：金子理事役
- 夕刻、成田支部の一木会員が到着。
- 21日までの活動状況と参加者募集の依頼を各支部長にメール  
別紙第7 「「常総市ボランティア活動協力のお願い（第4号）」



農機具倉庫の掃除

■22日（火）国民の休日 参加者：15名

- 宿泊での参加6名
  - 本部3名（長岡理事役、金子理事役、高谷理事役）
  - 四街道支部1名（久保会員）、成田支部1名（一木会員）
  - 船橋支部1名（高橋会員）
- 通修での参加9名
  - 本部1名（河野会長）
  - 山武東金支部6名（若梅支部長、鈴木会員、大嶋会員、鶴沢会員、川島会員と奥様）
  - 館山支部1名（川村支部長）、鎌ヶ谷支部1名（坂本支部長）
- 本部責任者：高谷理事役
- 川村館山支部長におかれては、千葉最南端館山市からの参加に頭の下がる思いです。  
又、山武東金支部川島会員におかれては奥様共々参加いただき感謝です。
- 夕刻、精山事務局長が到着。



苗箱の清掃

■23日（水）秋分の日 参加者：9名

- 宿泊での参加の5名
  - 本部3名（河野会長、精山事務局長、高谷理事役）
  - 四街道支部1名（久保会員） 館山支部1名（川村支部長）
- 通修での参加者4名
  - 本部1名（浮城副会長）
  - 四街道支部3名（山内会員、阿部会員、後藤会員）
- 本部責任者：高谷理事役

夕刻、成田支部の一木会員が到着。

■24日（木）参加者：7名

- 宿泊での参加4名
  - 本部4名（浮城副会長、高谷理事役）
  - 成田支部1名（一木会員）、館山支部1名（川村支部長）
- 通修での参加3名
  - 本部2名（天草理事役、大根理事役）
  - 山武東金支部1名（須藤会員）
- 本部責任者：天草理事役



母屋座敷の床剥し



床下の泥出し



最後に石灰散布による消毒

### ■25日（金）参加者：6名

- 宿泊での参加3名  
本部2名（天草理事役、大根理事役）、山武東金支部1名（須藤会員）
- 通修での参加3名  
山武東金支部6名（若梅支部長、川島会員、早稲田会員）
- 本部責任者：大根理事役

最後の活動日のため、朝から「青少年の家」の撤収に取り掛かり、当日朝到着した山武東金支部長以下3名とともに、長岡宅に前進。大根理事役は、常総市内の宅急便配送センターで簡易ベッドと寝袋を群馬県隊友会に発送した後に追及した。尚、この日は前夜からの雨のため、市VCとしては活動休止であったが、長岡宅に残した作業があることから、VCと調整の上、1400頃まで活動した。

作業終了後、ご主人と奥様に挨拶し、6日間の活動を終えた。ボランティア活動として我々にできることは終えたが、元の生活に戻るにはまだまだ大変である。「お体に気を付けて頑張ってください。」と付け加えて長岡宅を辞した。

天草理事役と大根理事役は、宿泊施設をお借りした石毛庁舎の生涯学習課に挨拶し、更に市VCに赴き、横島さんにお礼を申し上げるとともに、団体受付担当者に活動全般の報告、特に、当初の活動地区と大きく離れた長岡宅で6日間連続で活動することになった経緯を説明したが、担当者も交代しており、意とすることは伝えられなかった気がした。

VC訪問を終え、河野会長に「異常なく活動を終了した」旨を報告し、常総市を後にした。



長岡宅離れ  
お祖母さんと奥様が救出されたベランダ  
1階の家財道具はありません



長岡宅入口 まだまだ泥の中ですよ

9月10日に発災し、翌11日からボランティア活動の可否・要領の検討を始め、6日後に現地偵察、8日後から活動を開始して、偵察を含めて8日間の活動で、延べ71人の活動であった。

別紙第8 「常総市ボランティア活動の参加者名簿」

別紙第9 「常総市ボランティア活動の参加者活動記録」

25日（金）夜、各支部長に無事に活動を終了した旨のメールを送った。

別紙第10 常総市ボランティア活動終了に関するご連絡（第5号）」

## 5 活動経費

### (1) 隊友会本部への実費の申請

交通費と食事代及び寝具輸送費は、隊友会の「災害ボランティア実施規定」に基づき、事後精算であるが、隊友会本部に申請した。

この際の交通費ガソリン代は車種等による差異、高速料金はETC装着による差異を考慮し、下記の考え方で自己申告とした。

又、食事代は隊友会本部の指導により規定した。

以下、実費の考え方について記す。

#### ①燃料代

燃費は10Km/Lを基本とする。但し、10Km以下の場合は実燃費とする。

ガソリン単価は130円/Lとする。

#### ②高速料金

現金・ETCに拘わらず支払い料金とする。

#### ③食事代

活動日は1,000円/日、移動のみは500円/日とする。

又、活動のための栄養ドリンク及び会員奥様の食事代は、千葉県隊友会が支給した。

### (2) 千葉県隊友会としての補助

宿泊による活動は勿論であるが、日帰り活動であっても、早朝から夜遅くまでの活動になることから、500円を追加補助することとした。

## 6 ボランティア活動の成果とじ後への反映事項

### (1) 計画及び準備

#### ア 実施可否の判断と参加者の募集について

今回のボランティア活動の発災から活動終了までの時程の概要は下記の通りである。

- 10 (木) 発災
- 11 (金) 会長の決心 (指針受け)
- 12 (土) ~14 (月) 防災担当理事役による情報収集及び茨城県・常総市との電話調整
- 15 (火) 各支部長に参加協力依頼 (メール発信)
- 17 (木) 現地偵察
- 18 (金) 臨時理事役会
- 19 (土) ~25 (金) 活動

各支部長に参加協力の依頼してから4日後の活動まで、極めて短期間に会員への連絡と参加の取りまとめを頂けたのは、一重に各支部長のご努力によるものであり感謝申し上げたい。

県本部としては、会長に、「千葉県隊友会として条件が整い次第、災害ボランティアを実施する」という決心 (指針) を受けてから、茨城県・常総市の情報収集、特にVC受け入れ態勢等に関する情報収集を行い、概ね活動要領が見えた段階で各支部長に参加協力の連絡 (メール) した。つまり、4日間の情報収集期間の後、各支部長に4日後からの活動協力お願いした訳である。

この結果を踏まえて、今後の参加募集に関しての一案を提示する。  
発災後、ボランティア活動が予想される場合は、直ちに「災害ボランティア活動予令」を各支部に発信。この「災害ボランティア活動予令」に基づき、各支部会員は1~2週間程度を目安として、参加の可能な日を支部長に連絡することとする。とともに、県本部は情報収集を開始し、必要に応じ現地確認等を行い実施の可否を判断する。

このような体制を作ることにより、空振りがあるかもしれないが、円滑な募集と活動開始ができると考える。

又、「災害ボランティア活動予令」をHPにUPすることは、いち早く会員に知らせる有効な手段と思う。更に、活動状況を継続的にUPすることにより、会員がその状況を承知でき参加者の増加にも繋がると思われる。

#### イ 活動開始の時期 (タイミング) について

隊友会としては、基本的にVCが開設されてからというのがタイミングとして適当だと考える。VCが開設されるということは、2次災害などの恐れがなく一般人が活動できる状況にあるということが前提である。

早ければ早いほど被災者におかれては有難いであろうが、VCとの連携なしで単独の活動は、安全性と効果の上で活動すべきでない。

今回は、情報収集している間にVCが開設され、速やかに連絡を取り活動を開始でき、タイミングとしてはベストであったと考える。

## ウ 現地に関する情報収集について

事前の情報収集は、検討開始とともに国土地理院等の政府関連機関、茨城県及び常総市のHPを閲覧するとともに、電話連絡等により現地の被災状況、VCの状況などについて情報収集したが、十分ではなかったと思われる。地域の特性、歴史、習慣、市政の状況など時間の許す限り幅広く情報収集することにより、更に効果的に気持ちよく活動できるのではないかと思う。このためには、情報収集要員を予め定め分担を決めておくが良い。

又、今回は陸上自衛隊高射学校に赴き趣旨を説明し可能な情報の提供を受けた。隊友会として、自衛隊が保有する情報を提供してもらえる体制が構築できれば極めて有効であると考えている。

## エ 活動要領の検討について

### (ア) 日帰り活動と宿泊活動

今回、各支部長にボランティア活動参加の協力依頼した際、隣の県で近いという認識から、日帰り活動として案内した。

しかしながら、現地偵察の結果、現地での渋滞を踏まえて宿泊による参加を改めてお願いした。

改めて考えてみると、隣県千葉県といえども広く、茨城県に隣接した地区からは1時間程度ではあるが、房総などの地区からは3～4時間程度かかるわけで、日帰り活動と短絡的に決めてしまった感がある。

以上のことから、活動要領（案）の段階では「日帰り」と「宿泊」を幅広く検討するのが良い。

今回は、現地偵察の時に、「宿泊」の必要性を認識し調整の結果、宿泊施設が確保できたのは幸いであった。

### (イ) 移動に関して

今回の移動は、ほとんどが私有車であった。

現地偵察の結果、通行止めがあること、又、活動現場は路駐になることが分かり、8人乗りのミニバンなどのレンタカー借用についても検討の価値はあった。又、人員だけでなく、作業資器材の運搬も軽トラックのレンタカー借用も同様である。ただ、レンタカー借用については、参加者人数、移動所要時間、安全性（Drの確保）、経費等について十分な検討が必要であろう。

今回のように私有車での活動は、日帰り参加者にとって、一番自由度が確保でき便利であることは事実である。

レンタカー借用による移動は、集合・解散などなど意外に手間がかかるが、1週間程度の連続宿泊による活動には適していると思われる。

今回の状況では、私有車がベストということになるが、状況に応じてレンタカー借用についても検討すべきである。

## オ 現地偵察について

今回の現地偵察は、東日本大震災でのボランティア活動経験者の理事役を主体に編成し、市VC及び市役所と調整及び現地確認を実施したが、円滑にその目的を達成できたと思う。

偵察活動において、現地の現状に触れて、事前偵察なしでは難しいという実感があつたし、活動終了後に全般を振り返り、県単独で実施する上で事前偵察は必ず必要だと考える。

## カ VCとの調整について

既に述べたように、VCの状況を理解した上で実施することが肝要である。

- ①VCが立ち上がってからの期間（今回はVCが活動開始して4日目）
- ②社会福祉課職員が中心になるが、一般的には経験がない中での活動  
偵察に同行した高谷理事役は、浦安市のボランティア要員に登録されており、防災訓練の際にVCの立ち上げ、活動要領について訓練しているとのこと。従って、各自治体の平素の取り組みにより差があると思われる。
- ③職員の数よりボランティアの方が多い。

以上のことなどを理解して調整することがポイントである。

又、隊友会側にあつて、自衛隊での経験を踏まえ組織的に活動できることをアピールする反面、年齢平均は60歳後半であることなどをVCに理解してもらう必要がある。

今回、市VCと事前調整した活動場所とは別の活動場所になったが、これはVC内の齟齬であるが、そのことを追求するより、柔軟に対応し必要な作業を進めることとした。

ただ、20人以上で参加し2コ班に分かれて活動する場合などは、本部要員をもって、VCで翌日の活動について十分な調整時間を確保することも必要であろう。

## (2) ボランティア活動の実施上での具体的事項

### ア 防災服等について

先に述べたように、隊友会支給の防災服、靴、リュック、手袋、帽子は非常に役立った。作業そのものに役立つの勿論であるが、VC職員及び被災者からも安心感・信頼感を得ることにも効果があると考ええる。

これらの装備は、防災ボランティア要員に登録した会員が個人で管理しているが、更に登録希望者もいることから、隊友会本部での追加購入を要望したい。

又、雨衣（汚れ作業にも活用）、夏用薄手の上衣、冬用ジャンパーも準備できれば尚更良い。

県として、既に個人配布している防災服等について、体調変化等で防災ボランティアへの参加が困難と思われる会員には返納していただき、県として管理していきたい。

写真で紹介した隊友会ロゴ入り黄色いビブスは、識別上、自他ともに必要最小限の装備である。

### イ 私有車の表示

常総市までの移動及び「青少年の家」～現場までの移動は私有車を利用した。このため、私有車に千葉県隊友会であること、ボランティアで活動していることが解るように表示することになったが、時間がなかったため、森船橋支部長が自宅PCでマグネット効果のある用紙に印刷できるとの申し出があり作成をお願いした。ただ、薄い用紙であるため車両外側への貼付はマグネット効果だけでは剥がれてしまうのでガムテープを使用した。又、VCからの助言もあり、作業間は路駐になることから、ボランティア活動実施中の表示とともに、運転手の携帯番号を付記した用紙を手書きで準備し、フロントガラス内側に張り付けた。

いずれも、通行規制にあたる警備の方に対してでも有効であるとともに、住民の方々の理解とトラブル防止になると思われるので、県本部で平素から準備しておくとう便利である。



### ウ 宿泊用寝具について

隊友会本部と群馬県隊友会のご尽力より、簡易ベッドと寝袋の提供を受け、快適に宿泊できた。群馬県と山梨県に分散管理していると聞いているが、有効である。できれば、冬対策のための毛布等が必要と思う。

### エ 食事について

今回は、安易に最も軽易なコンビニ弁当で済ませた。

時期的に冷たい弁当でも問題なかったが、冬場の寒空の下では温かい食事が必要であろう。軽易な炊事用具があれば、温かい味噌汁ぐらいは可能と思われる。

陸自需品科隊員などから良いアイデアをいただきたい。

## 7 おわりに

千葉県隊友会は、東日本大震災では気仙沼に赴き6日間に亘り津波で被災した方々の手助けに行きました。そして今般は1週間に亘り、ボランティア活動を実施しましたが、今回は千葉県単独での活動であり、特に、準備にあたってはこれまでにない経験であり、貴重な教訓を得たと考えます。

最初に述べたように、自然災害は、いつ、どんな形で見舞われるか想像はつきませんが、間違いなく発生すると思われます。その中で、隊友会には更に多くの期待が寄せられるものと認識します。

隊友会は、自衛隊と国民の架け橋となる活動は勿論重要なものです。とともに、日本が困っている時に我々の特性を生かしたボランティア活動は、更に充実させることが求められると思ひます。

全くの個人的な意見として申し上げますと、若年定年という特性がありますが、定年退官した以降の生活は、優遇された年金制度もあり健康であれば一般的には恵まれていると感じます。そして、現代の社会にあつては、60歳代は「ひよこ」と言われ、寿命もどんどん延びております。こんな中で、自衛隊で培った団体行動による組織的活動能力を生かさなない手はありません。

広島カープの山本投手は、今年50歳で引退しました。50歳までプロ現役投手という実績は驚くものがあります。

その山本投手が引退にあつての記者会談で、「若い時のパワーに、今の技術があれば年間20勝は確実です」と述べております。

まさしく我々にも同じことが言えるのではないのでしょうか。パワーは落ちましたが、テクノロジーの技術ではなく、経験から生まれた技術は全員が保有しております。

被災した方の個人的な復旧は、ボランティアに頼るしかありません。我々の持てる力を隊友会としてのボランティア活動に生かしていただきたいと思ひます。

ボランティアの語源は、志願兵を指したものです。戦(いくさ)ではありませんが、自然災害から復旧するための戦いに志願し、力を合わせたいと思ひます。

活動記録を編纂中の10月10日、発災から1か月過ぎましたが、未だ約500人の方が避難生活を送っているとのこととす。

千葉県隊友会としての活動は1週間で終了としましたが、被災した方々が元の生活に戻るにはまだ時間が必要だろうし、その辛苦を察するにあまりあるものがあります。

どうか一日でも早く復旧し、美しい田園風景を取り戻し、家族揃って落ち着いた生活ができますよう祈念申し上げます。

「常総市災害ボランティア活動の記録」  
編纂担当  
千葉県隊友会防災担当理事役 大根正雄

### 追記

10月末、長岡様からお礼の手紙が届きました。

別紙第11「長岡様から隊友会宛に頂いた礼状」



明るい日差しがそそぐ被災前の長岡宅「祈早期復旧」

## 常総市ボランティア活動協力のお願ひ（第1号）

各支部長 殿  
(河野千葉県隊友会長の指示によりご連絡)

台風18号により、特に茨城県常総市は鬼怒川の決壊により、5000世帯以上が浸水し、現在も水が引かない地区もあり、まだ多くの方が避難生活を余儀なくされております。常総市も混乱の中、昨日からボランティアセンター立ち上げました。このような状況を踏まえ、千葉県隊友会として常総市に対する災害ボランティアを実施することといたしました。

常総市は、利根川を渡れば直ぐ近い地域であり、ボランティア活動も比較的容易だと考えます。是非とも皆様のご協力をお願いします。

現地ボランティアセンターに電話で調整しましたが、現段階では、近傍市町村からのボランティアを希望していましたが、隊友会という組織であればかなりの期待をよせている様子でした。

県本部としては、とりあえず17(木)に理事役をもって第1陣を現地に派遣し、現地の状況把握に努め、最終的に判断して、改めて詳細な連絡をいたしますが、各支部におかれましては、防災ボランティアに登録されている方以外でもボランティア活動が可能と思われる方に参加の可能性を確認していただきたいと思ひます。

現段階での活動要領に関する案

- 活動期間:19(土)から1週間程度(25(金)まで)
- 移動要領:常総市まで私有車による日帰りによる支援
- 現地ボランティアセンターが指示する駐車場
  - 第一駐車場:水海道流通センター  
〒300-2512 茨城県常総市大輪町903-6
  - 第二駐車場:大花羽小学校  
〒300-2512 茨城県常総市大輪町386-1
  - 第三駐車場:常総市青少年の家  
〒300-2521 茨城県常総市大生郷町1032-4

○活動内容、要領

- ・現地ボランティアセンターとの調整に基づき、指定された場所の被災家屋のがれき除去、壊れた家財の撤去、泥のかき出しや清掃
- ・側溝整備(泥だし)
- ・土砂の土嚢詰め等
- 作業の実施にあたっては、千葉県隊友会としてまとまって行動できるように現地ボランティアセンターと調整したいと思ひています。  
現地ボランティアセンターのニーズと参加人数等を踏まえて、千葉県隊友会として活動できるように集合場所の指定、作業編成等について検討し、参加者に連絡します。

○服装等

- ・上記作業が可能な服装で個人計画(作業着上下、長靴、手袋等)
- ・防災ボランティア登録者は隊友会から配布した防災服着用。
- ・作業資材は現地ボランティアセンターの準備状況にもよりますが、状況により、シャベル等を携行。

○経費

- ・移動のための交通費、昼食は隊友会が支給します。
- ・ガソリン代・高速代は当面立て替えていただき、じ後精算。
- ・昼食は現地支給の可能性について検討。

本ボランティア活動参加のネックになるのは、常総市までの私有車による移動だと考えます。各支部毎に乗り合わせなど工夫して多くの方に参加していただきたいと思ひます。参加日は1日にでも、飛び飛びでも大丈夫です。

又、ボランティア保険は隊友会として加入します。

参加できる方については、氏名・年齢・住所・参加日をご連絡ください。

確認でき次第、明日(16日)以降逐一で結構ですので、努めて早くご連絡頂きたいと思ひます。

(千葉県防災担当理事役 大根)

## 常総市ボランティア活動協力をお願い（第2号）

各支部長 殿

（河野千葉県隊友会長の指示によりご連絡）

今般のボランティア活動に関しまして、急な依頼にもかかわらず各支部長皆様の早速のご対応に感謝申し上げます。

17日夜までに数件のご回答を頂いておりますが、県としては更に多くの皆様の協力をお願いする次第です。

本日（17日）、理事役5名（永岡、天草、森、高谷、大根）により、常総市に赴き現地偵察を実施し、現地の状況把握及び常総市役所と常総市ボランティアセンター（以下常総VCと称する）との調整を実施しました。

以下、偵察結果の報告及び偵察結果に基づく19（土）以降のボランティア活動に関してご連絡致します。

### 1 現地偵察の概要

- 0730、市川に集合し、湾岸市川IC～東関道～常磐道経由で前進。谷和原ICを出てR249から常総BC向かう予定でしたが、R249は通行止めの案内（ナビも同様）があり、鬼怒川の西側県道から迂回。谷和原ICまで1H少々、谷和原IC～常総BCまでは諸所に渋滞があり2H弱の所要。
- 市内の状況  
現在も水が引かない地区もあるそうだが、通過経路上では確認できなかった。浸水した地区は道路脇に家財等が山ずみ、小学校等に集積。
- 市役所内は、被災者が被災届けの人達が大勢。
- 市内には通行止めの表示が諸所にあるが、実際は通行しており、偵察班も通行したが問題なし。
- 帰り路R249を南下した際、水海道～守谷の間の一部で通行止めがあり迂回。
- 常総VCでの調整と処置（BCは、社会福祉協議会職員とボランティアにより運営）

#### VCの状況

悪天候のため17日のボランティア活動は休みでしたが、職員等はボランティアニーズの把握と明日以降のための調整会議等を実施中。

VCは、心身障害者福祉センター内に設置（大きな公民館のイメージ、駐車場は約30台で満杯の状況）

14日からのボランティアの実績（900名/日）、今後19日からのシルバーウィーク間は2,000名/日を予想している。

これまでのボランティアは近傍に準備した駐車場に駐車してもらっているが、更に拡大の可能性を検討中。

受け付けもテント2張り程度であり相当の混雑するだろうし、準備した資材も十分ではないと思われる。

- 職員（横島さん）と別室にて個別調整

VCとしては、隊友会に期待、特に、一般ボランティアにはお願いしかねる作業を期待したいとの様子。又、まとまった地区を担当してもらいたい意向。

これに対しては、隊友会は自衛隊での経験保有、但し、高年齢等の特性を説明。

いずれにしろ、当方の参加人数が確定できない状況のため、19日朝（0900前）に参加者名簿を提出し活動内容、場所の指示を受けることとした。

- 宿泊のための調整結果

上記の移動所要、BCの混雑など踏まえ、毎日朝到着してBCで受付し活動開始することは、非常に非効率であることが判明。このため市側に宿泊施設の提供について依頼。

VCで「常総市青少年の家」の情報提供を受け、所掌の市役所「教育委員会生涯学習課」と調整した結果、快諾を得た。

- 「常総市青少年の家」

廃校を活用したもので、非常に老朽化した施設。教室、会議室などは宿泊には十分（水とトイレもOK）

尚、施設内に施設中隊（8張り、27名）が宿営。我々の動きを察知し、屋内宿泊について市と調整するものと思われる。

・宿泊に必要な物品

隊友会本部（市ヶ谷）は4年前の東日本震災ボランティアで使用した物品を群馬県等に保管していることから、使用について打診した結果、対応可。

19日には簡易ベッドと寝袋を「青少年の家」に配送の処置。

2 偵察結果に基づき今後の活動の変更・追加等

・日帰り活動の他、宿泊による活動の追加

当初、各支部長に日帰りでの活動として協力依頼をお願いしてきたが、宿泊して活動できる方の確認を依頼。

活動前日夕方頃までに「青少年の家」到着、宿泊、翌日活動。或いは、朝到着後活動し、宿泊して翌日帰路という要領等もあり、効果的かつ安全な活動、更に融通性が確保できる。

又、屋内宿泊、ベッド等を確保しており個人の負担は少ないと判断。食事は近傍のコンビニ利用。

・宿泊活動に伴い、「青少年の家」に千葉県隊友会本部としての機能を設置。

本部理事役等を活動期間内2～3名配置して、BCとの調整、参加者の案内、活動の統制等を実施。

3 参加者の行動に関する事項

・日帰り又は宿泊による参加いずれの場合も集合場所・解散場所は原則として「常総市青少年の家」とする。朝の到着は0830とする。

住所：常総市大生郷町1032-4

・基本的な活動時間は0900～1600であり、作業編成・内容・場所等は、VCと調整した結果に基づき、隊友会本部が統制する。活動場所への移動は個人の車両を使用。器資材の運搬はVCの軽トラの支援を受ける。

・参加者の服装は、汚れ作業に必要な服装を個人ごとに準備、天候にもよるが雨具・長靴の準備。又、帽子手袋は必須、用心してマスク。宿泊者は着替えと日用品。

・作業器資材はBCから提供を受けるが、不足も予期し、できる方はスコップ、デッキブラシ等を準備。

・参加者の経費については、移動費用、食事代（朝昼夜）は隊友会が支給する。どちらも後日精算になりますが、移動費用の精算に関してはガソリン代と高速代を申告していただきます。

4 各支部長へのお願い

既に参加者の通報を頂いている支部もありますが、宿泊希望者の確認をお願いします。これからの支部は含めて回答をいただきたい。ボランティア保険加入もあり隊友会本部（市ヶ谷）への報告がありますので、逐一で結構ですので名簿を通報していただきたい。

千葉から近い常総市ですが、今日の偵察は遠く感じました。今回のボランティアで一番気になるのは、移動だと思います。

通行止め等は今後逐次解消されると思いますが、鬼怒川と小貝川の間を栃木方面に繋ぎ常総市を縦断するR249は普段から結構な交通量です。今回の被害で慌てている地元の方もいると思います。時間に遅れることは問題ありません、

くれぐれも安全運転でお願いしますようお願いいたします。

本日、偵察から帰り、不本意ではありますが、古館のニュースステーションを晩酌の共にしました。安倍総理、中谷大臣、佐藤委員、お疲れ様でした。

やはり辻本、蓮舫は目立ちます、グリーンスーツの馬乗り女性議員は誰？ 姿なきマイクを離さない女性議員は？

くだらないことはさて置き、速やかに本会議を通過させて、大一番「憲法改正」に着手していただきたいと願います。

シルバーウィーク、お彼岸などなどお忙しいこととは存じますが、ご協力を宜しくお願い申し上げます。  
(千葉県隊友会防災担当理事役 大根)

## 「常総市ボランティア活動協力のお願い（第3号）」

各支部長 殿  
(河野千葉県隊友会長の指示によりご連絡)

本日（18日）、臨時理事役会を実施し、実施要領等の細部を詰めるとともに、参加者を掌握しました。

各支部長におかれましてはお忙しい中、会員への案内及び参加に伴う細部調整等を実施していただき感謝申し上げます。  
参加者名簿を添付します。

明日以降も参加者の受付は継続して行いますので、新たな申し出があった場合はご連絡ください。特に、24日25日は平日であることもあり参加者が少ない状況ですので引き続き募集をお願いします。

明日から、理事役をもって常総市に前進し、20日以降皆様の受け入れ態勢を準備します。  
お気をつけてお出てください。

(千葉県隊友会防災担当理事役 大根)

## 常総市ボランティア活動参加の所見

千葉県隊友会 副会長 浮城洋一

ボランティアでやっている組織内のボランティア派遣なので、あまり真面目な意見をいうのはどうかと思いますので、今後に生かせる点だけを述べます。

### 1 派遣準備

- (1) 現地偵察から派遣計画の作成までが迅速で、戦機を捉えた行動に敬意を表します。
- (2) この間に、県HPに派遣準備と募集を掲載しても良かったと思う。そうすれば、アクセス数が増えたかもしれない。(自己のブログの経験から)

### 2 作戦実施

- (1) ボランティア参加者の意識と自衛隊での経験値が高く、また個人の能力が高いので、作業が驚くほど効率的にできた。OB会の仕事には見えなかった。
- (2) 指揮統制組織があるようでなく、問題が起きないか心配したが、狭いエリアでの少人数作業なので特段の問題は発生しなかった。今後のことを考えると、明確にして作業に入る必要がある。
- (3) 作業実施間も毎日、WEB (HP) を更新する等の態勢があれば、理想的である。エピソードやトピックスも入れて構成する。

### 3 その他

- (1) 作業前に参加者を一堂に集めて(今回は事務所)、全般状況や派遣先(地理的場所、家屋、ご家族)等をブリーフィングした方が良い。また、毎朝、作業開始まで時間的余裕があるので、被害を受けた特徴的な場所や、可能なら決壊場所などに案内して社会勉強の一助とするも良しと感じた。
- (2) 隊友会提供の寝袋は保温効果が極めて低くて寒く、良く眠れなかった。簡易ベッドが準備されていたのは良かった。
- (3) 交通費等を支給して頂くことになり感謝しているが、ボランティアを都会に住んで行おうとすると、意外な出費がかかるものだと感じた。長靴、作業着、シャツの購入である。断捨離なので、長靴以外はゴミに出しました。

県として、大きな反省点はありません。

83歳の長老を始めとするボランティアされた老人たちの頑張りには尊敬の念で一杯です。

## 常総市ボランティア活動参加の所見(活動記録)

千葉県隊友会 理事役 天草 洋

9月20日

当日朝、玉地区VCの横山氏から受領した活動先は若宮戸の農家であったが、出発に先立って事前連絡した所、『昨日までで作業は終了したのでボランティアは必要ない、またその旨を昨日市役所に連絡済』との事であった。

情報が玉地区VCには届いていなかった為に齟齬が発生していた。

改めて活動ニーズを受領したが、玉地区とはかけ離れた南の沖新田地区の長岡邸であった。地区を超えた要望が来ているのもおかしいところではあるが、これが実態ではないだろうか。

9月24日

朝、玉地区VCにて活動ニーズを受領。前日の調整により長岡邸の要望を伝えていたこともあり、本日も長岡邸の作業となった。

長岡邸は自宅の作業よりも家業の農業設備、機械等の復旧作業を優先させた為に、自宅の床剥し、床下の泥出しはこの日からとなった。作業が後回しとなり遅れた為、異臭が漂い始めている状況であった。

床剥しはバール、金槌、鋸でフローリング部分を除く概ね20畳程度を剥ぎとり、床下の泥出しはスコップとレーキでかき集め、土嚢に詰めて搬出した。その後、石灰散布による消毒を実施した。自宅のボランティア作業終了段階で、小雨がぱらついていた。

作業終了後、主人に確認した所、『可能であれば明日もお願いしたい、敷地内の漂着物等の処置をお願いしたい。』と申し出があり、VCにその旨報告し帰宿した。

9月25日

雨天、本日でボランティア活動を終了するため、早朝から宿舎の撤収、清掃、寝具等の発送準備を行い、0800玉地区VCに行ったところ、雨天の為ボランティア活動は中止したとの事であった。

しかしながら、千葉県隊友会としてグループで活動し、本日で終了する予定であり、長岡邸の要望もあり、片づけてから活動を終了したい旨を伝え、了承された。

VCからは、長岡氏に「今日ボランティアが支援してくれた！とは決して他人に言わないように伝えて下さい。」と念を押された。VCとしては、『中止としておきながら、特定の家ではボランティア活動を受けているではないか。』との誹りを避ける必要があるのではないかと感じた。

作業は、長岡邸敷地内の漂着物の収集、土嚢詰め等を行い中型トラック2台分を搬出した。全員雨合羽を着て泥だらけの作業となった。

14時過ぎに作業を終了し、現地解散し、夫々帰途に就いた。

理事役は、市役所、VCに行き活動の終了を報告し帰途についた。

## 常総市ボランティア活動参加の所見(活動記録)

千葉県隊友会 理事役 高谷哲郎

9月17日 事前偵察

9月18日 臨時理事会

9月19日 活動準備及び常総市青少年の家に宿泊準備

9月20日

常総市災害ボランティアセンターの玉地区に前進して玉地区を統括する災害ボランティアの横山氏の掌握下にはいる。

当初活動ニーズを受領したが、活動先に連絡するとすでに作業は終了していることが判明した。再度活動ニーズを受領して、活動先(長岡様)に連絡と確認を取り前進した。

また、当初ボランティアセンターで資材を借り受ける予定であったが、エンピとデッキブラシ、数本の箒以外の資材は無かった。これは、我々が玉地区のボランティアセンターに到着するのが、他の団体より遅かったこと、現地でのセンター側の資機材の貸し出し統制と管理が無かったことが原因と考えられる。

活動場所は、米農家であり、自宅以外にも納屋や倉庫など複数の建物があった。他の一般ボランティアも活動しており、母屋については被災者と一般ボランティア、隊友会は納屋と倉庫の清掃を実施した。納屋には多量の土砂と水が入り込でおり、ヘドロとなって体積していた。

倉庫内には多数の薬品が置かれていたようで、隊員に気分が悪くなる者が出た。被災地においては、密閉された空間に入る際には、良く換気をするか、防護マスク等を着用して進入する必要がある。原因と思われる薬品は除草剤で、多量水を吸いこんでおり、パッケージから漏れ出ていた。また、米を保管していた際に、水を吸いこみ発酵して匂いを発していた。

(コメについては前日別の団体が搬出していたが、機械の中に一部残っていた)

作業には多量の水を利用して清掃を実施する為、防水靴や雨衣などの支給もしくは携行が必要と感じた。

現場に前進途中、四街道支部の車両がはぐれてしまうアクシデントが発生した。

これは、四街道支部の車両積載カーナビが、やや古く正確な住所が分からなかったこと、後身経路や地点を確認できる住宅地図レベルの準備がなかったこと、車両の行進速度がバラバラであったことなど、複数の要因が考えられる。また、カーナビについても、誘導する経路がそれぞれ異なることが有るため、行進経路の設定の必要性を感じた。状況によっては、更に行進順序を統制、経由地点を設定する必要があると思われる。

車両の人員には予め運転手以外の者に電話できるよう、調整をしておく必要がある。運転手は出れないことが多く、他の隊員もマナーモードで着信に気付かないことが多々あった。

家主には引き続き明日も活動してほしいと要請を受けた。

明日以降は畑付近にある倉庫内の整理清掃の依頼

活動終了報告の為、天草理事役とともに、玉地区VCに前進し、報告書を記入して、家主側の継続依頼を伝えて、明日も長岡邸作業継続であることを確認して帰隊した。

9月21日

活動場所は引き続き長岡邸にて、畑の先の倉庫やビニールハウスの清掃活動を実施。納屋の中にも多量の泥と水が入り込んでおり、農具機材の搬出及び納屋の清掃を実施した。多数の苗箱があり、被災者の依頼でこれの清掃を実施することになった。数が多く泥も一度乾いており、手作業では大変困難を極めた。さらに、納屋の中のドラム缶から多量の油が漏れており、苗箱に付着、油のついた苗箱は使用できないので、この選別作業も実施した。また水道が一つしかなく、水作業に対して給水が追い付かない場面が多々あった。多くの隊員がゴム手袋を持参しておらず、長期の水を利用した作業の場合は支給が必要と感じた。本日は資材は全て搬出したが、苗箱の2/3は倉庫内に残った状態で終了となった。明日以降はゴミの積載と苗箱の清掃及び整理を引き続き実施することになった。

9月22日

活動場所は引き続き長岡邸にて、昨日の続きのゴミの積載と苗箱の洗浄。隊員の多くが慣れてきており、作業効率化が進んだ結果、苗箱はわずかに残す程度で終了した。

9月23日

活動場所は引き続き長岡邸にて、倉庫の最終清掃を実施。昨日終わらなかった苗箱を終わらせ、事後2班に分かれて作業を実施した。

1班はトラクターやその他大型機材を倉庫内において高圧洗浄器で洗浄、事後床の洗浄に移り、泥及び水の掻き出しを実施した。

2班は倉庫内にあった多数の資材及び道具類について、各人の手で水洗浄を実施した。倉庫内の清掃及び資材洗浄終了後、倉庫内に資材を運び込み、倉庫清掃は完了した。

家主に明日は母屋の床下の泥かきを依頼された。泥かきについてもVCに依頼を出しているが派遣してもらえず、付近の家で床下の泥かきは自分の家だけが残っていると聞いていた。上記の旨をVCに報告時に伝達、明日もVCで命令受領ご前進予定となった。

## 「常総市ボランティア活動協力のお願い（第4号）」

各支部長 殿  
(河野千葉県隊友会長の指示によりご連絡)

一昨日から開始した「常総市ボランティア活動」の状況を報告します。

- 19 (土) 4名(事務局長、理事役3名)が、「常総市青年の家」に前進。
- ・事務射開設、常総市ボランティアセンター(以下、常総市VC)との調整、宿営を実施。
  - ・常総市VCとの調整結果  
通常、当日朝0900に団体受付を実施しているが、隊友会は現地に開設されている玉地区ボランティアセンター(以下、玉地区VC)に直接行くということで了解を得る。
  - ・玉地区VCとの調整  
頼りになる自衛隊OB(?)なので、未だ手つかずの地区に入っていただきたい。  
細部の家は明朝打ち合わせ」  
常総市VCは、被災地区を7区画に区分、玉地区は決壊した2か所の内の上流の決壊した場所を含む地区で、被災程度が大きな地区。
  - ・宿泊に必要な簡易ベッド及びスリーピン各12個が群馬県から届きました。  
隊友会本部と群馬県隊友会の迅速な対応に感謝です。おかげさまで快適な睡眠を取れました。

20 (日) 13名をもって玉地区の大農家の泥だし等を実施。

- 21 (月) 同様13名をもって同じく玉地区を実施。(添付資料)  
当初は10名の予定でしたが、四街道の山内さん、後藤さんが急きょ、連続で参加してくれることになりました。

2日間の活動は以上なく終了しております。又、宿泊場所の青少年の家は予想以上に快適です。19日の初日には、陸自部隊(古賀駐屯地所属101施設機材中隊)が宿泊していましたが、夕刻に撤収命令が出て帰隊しました。(当初、偵察に行った際は天幕露営でしたが、隊友会が市と調整し使用することを承知し、市に要望して使用していました)撤収にあたっては、自衛隊らしく徹底した清掃を行い、お陰様でトイレ等もきれいになりました。

以上が活動の中間報告ですが、今後も安全かつ喜ばれる活動ができればと思っています。そこで更なる協力依頼ですが、添付した参加者名簿(9.211700現在)の通り、23(水)24(木)25(金)の参加人員が少ない状況です。10名以上の参加が望まれるところです。

各支部長におかれましては、今一度会員にお声かけていただければと思っています。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

(千葉県隊友会防災担当理事役 大根)

## 千葉県隊友会「常総市ボランティア活動」参加者名簿

No	(ふりがな) 氏名	性別	年齢	住 所	電話番号	ボランティア保険	資格等
1	やまうちみのる 山内 實	男	83			隊友会として加入	
2	あべ はるお 阿部 治夫		73				
3	なかお ひでお 中尾 英夫		72				
4	こばやしのりたね 小林 紀 胤		72				
5	ごとう まさゆき 後藤 正幸		73				
6	くぼ まさはる 久保 正治		71				
7	わかうめ ともお 若梅 友男		75				
8	すずき すみお 鈴木 純夫		69				
9	かわしまよしみつ 川島 義光		61				
10	かわしま けいこ 川島 恵子	女	58			VCIにて加入手続き	
11	おおしま ひでお 大嶋 秀夫	男	76			隊友会として加入	
12	うざわ まこと 鵜澤 誠		66				
13	わせだ いつお 早稲田五男		74				
14	すどう けんいち 須藤 賢一		66				
15	しばた とくお 柴田 徳雄		61				
16	いちきかんざえもん 一木 勘左衛門		67				
17	さかもと ひろき 坂本 祥貢	男	56			隊友会として加入	
18	あきしげ ちかお 秋重 親雄		79				
19	くりさわ よしあき 栗沢 義昭		77				
20	たかはし みつと 高橋 満人		59				
21	かわむら いわお 川村 巖		78				
22	かわの よしのり 河野 美登		64				
23	おぶち のぶお 小淵 信夫		61				
24	うきしろ よういち 浮城 洋一		66				
25	せいやま ひでと 精山 英人		62				
26	ながおか まさし 永岡 雅史		65				
27	あまくさ ひろし 天草 洋		64				
28	もり よしお 森 良雄		60				
29	たかたに てつお 高谷 哲郎		32				
30	かねこ ゆきお 金子 幸雄		60				
31	おおね まさお 大根 正雄		62				

## 千葉県隊友会「常総市ボランティア活動」参加者活動記録

	支部	氏名	参加日							
			17(木)	19(土)	20(日)	21(月)	22(火)	23(水)	24(木)	25(金)
1	四街道	山内 實			1	1		1		
2		阿部 治夫						1		
3		中尾 英夫			1					
4		小林 紀胤				1				
5		後藤 正幸			1	1		1		
6		久保 正治			1	1	1	1		
7	山武東金	若梅 友男			←————→					1
8		鈴木 純夫					1			
9		川島 義光					1			1
10		川島 恵子 (同上婦人)					1			
11		大嶋 秀夫					1			
12		鷗澤 誠					1			
13		早稲田五男								1
14		須藤 賢一							←1	→1
15	美浜	柴田 徳雄			1					
16	成田	一木勘左衛門				←1	→1	←1	→1	
17	鎌ヶ谷	坂本 祥貢				1				
18	市原	秋重 親雄			1	1				
19		栗沢 義昭			1	1				
20	船橋	高橋 満人			←1	→1				
21	館山	川村 巖				1	←1	→1	→1	
22	会長	河野 美登				←1	→1			
23	副会長	小淵 信夫			←1	→1				
24		浮城 洋一					←1	→1		
25	理事役	精山 英人		1	1	1	←1	→1		
26		永岡 雅史	1			←1	→1			
27		天草 洋	1	←1	→1			←1	→1	
28		森 良雄 (船橋支部長)	1		1	←1	→1			
29		高谷 哲郎	1	←1	→1	1	1	→1	1	
30	金子 幸雄			←1	→1					
31	大根 正雄	1	←1	→1				←1	→1	
			17(木)	19(土)	20(日)	21(月)	22(火)	23(水)	24(木)	25(金)
						敬老の日	国民の休日	秋分の日		
	計		5	4	12	13	15	9	7	6
		宿泊者		5	6	6	5	4	3	

 現地連絡担当者
  宿泊期間

## 「常総市ボランティア活動終了に関するご連絡（第5号）」

各支部長 殿  
（河野千葉県隊友会長の指示によりご連絡）

本日25（金）をもって常総市ボランティア活動を終了しました。  
皆様のご協力に感謝申し上げ、終了のご連絡をいたします。

本日25（金）は雨のため、常総市ボランティアセンター（以下VC）は基本的には中止でしたが、千葉県隊友会は、昨日までの作業の残りがあり、VCと調整し団体活動として了解を得て実施しました。

本日の参加者は、予定は8名でしたが、急きょ都合がつかなくなった方もおり、6名で実施しました。（山武東金支部長以下4名と理事役2名）

朝、宿泊させていただいた「常総市青少年の家」の片づけ・清掃を行い、隊友会本部から借用した寝具類を保管担当の群馬県隊友会に発送するとともに現場に移動し、午前の作業と昼食をはさみ午後1時間ほどで、隊友会が担任していた被災者のニーズすべてを完了し、帰路につき全員無事に帰宅しました。

17（木）理事役5名による現地偵察・調整から始まり、19（土）～25（金）の7日間、延べ71名の参加を得て実施しました。

今回のボランティア活動は、

- ①千葉県隊友会単独での計画と実施
- ②移動所要が1～3時間程度の隣県での活動
- ③市VCが立ちあがった初期段階での活動

これらの特性があり、東日本大震災の際に気仙沼で実施した活動とは違った意味での教訓があると考えております。

これらにつきましては、詳細な活動報告を作成し、後日ご報告する予定です。  
まずは、一件の事故もなく無事に終了できたことに安堵する次第です。

帰路につく前に、常総市VCに報告に寄った際、全体像が把握できていなく活動終了の目途はつかないとのことでした。

我々が支援した被災者は、親戚に大工さんがいるそうですが、修復の目途はたたない様子でした。

後ろ髪を引かれる思いで帰路につきましたが、政府は激甚災害に指定するようですので、十分に保証がなされ、復旧も加速するものと思われまます。一日でも早い復旧を願いたいと思ひます。

今回の活動にご協力をいただいた会員各位に感謝申し上げますとともに、各支部長におかれましては、急かつ再三のお願いにも関わらず真摯にご対応いただき、誠にありがとうございました。

簡単ではありますが、以上で常総市ボランティア活動終了に関するご連絡と致します。

追伸

交通費等の精算につきましては、後日、様式を送りますのでご記入後、返信願ひます。

（千葉県隊友会防災担当理事役 大根）

拝啓

この度は、弟、終市を、あそばした水災に際しましては、隊友会の  
皆様には、たいへんお世話になり、本当にありがとうございます。  
長岡家は、皆様のあかど、どうか、災害のショックが、少  
す、立ち直り、家族一丸と、一日も、早く以前の生活に  
戻すべく、努力してまいります。

皆様の、お持ちと、お心れず、がんばるまいります。

ぜひ、この度、皆様、遊びに、来て下さい。  
お待ちしております。

隊友会の皆様、ご報告かたがた、お礼を申し上げます。

長岡恒雄・あひ子

敬具